

令和2年度 学校評価実施報告書

幼稚園名（深草幼稚園）

教育目標

豊かな心をもち、よく遊び、健やかに伸びる子どもの育成

年度末の最終評価

自己評価	<p>教育目標の達成状況、次年度に向けた見直し</p> <p>コロナ禍という異例の状況の中、教育目標に向かう姿勢や在り方について、再検討、再構築することとなった。その結果、教育活動のひとつひとつの意義や取組について、教職員皆で改めて問い合わせ直す機会を得た。</p> <p>子どもたちの命を守ることを大前提としながら、保育の充実を図るために、目に見える活動だけではなく、心をつなぐ、思いをつなぐことを大切に取り組んできた。子どもたちは、主体的に環境（園内環境及び深草地域の環境等）にかかわり、遊びや活動を楽しみながら、自ら試したり工夫したりする姿が育ってきている。また、友達、教職員、地域を含む周りの大人に対する親しみを感じ、自己肯定感や友達の良さを認め合える友達関係が育ちつつある。</p> <p>次年度も、幼稚園、子どもたちを取り巻く環境に柔軟に対応し、本当に大切にしたいことは何かということを常に自らに問い合わせ直しながら教育活動を進めていく。</p>
学校関係者評価	<p>学校関係者による意見・支援策</p> <p>今年度は、コロナ禍の中、三密を避けることが大切であり、普段通りの幼稚園生活、行事を行うことが難しかったと思う。しかし、いろいろな活動や行事の制限がある中でも、幼稚園児という年齢・発達から考えると、人と人が直接かかわること、実際に体験することの大切さを改めて感じる1年であった。</p> <p>来年度は、実際に子どもたちと触れ合う機会が増え、直に子どもたちの様子や育ちを見て感じられるようになると良いと願っている。</p>

学校関係者評価の評価日・評価者

	評価日	評価者
中間評価	10月12日（月）	学校運営協議会（なかよし会）
最終評価	3月12日（金）	学校運営協議会（なかよし会）

（1）幼稚園教育（保育の改善・充実）について

具体的な取組

- ・園内研修を通して、人とのかかわりを広げることで、互いに刺激し合いながら遊びを展開させていく姿を見取り、集団における個々の子どもの育ちと集団としての遊びの充実の在り方を探る。
- ・教師との信頼関係を基に、安心・安定を基盤とし、それぞれの発達に応じて、身近な人に主体的にかかわる楽しさや喜びを味わうための環境構成や援助を考える。
- ・幼児一人一人の発達の特性や興味・関心、また幼児期に育てたい資質・能力を意識した教育課程の見直しを図る。
- ・幼稚園兄弟の取組や未就園児とのつながりをもてる機会を通して、異年齢同士がかかわる機会を意

図的に設定する。

- ・子どもの感動体験につながる園行事の見直しを図かり、行事等を通して地域の方とのかかわりを大切にするとともに、遊びや生活との連続性をもった保育を実践する。

(取組結果を検証する) 各種指標

- ・週案の反省やエピソードの検討を通して、子どもの姿を見取る
- ・研究保育の協議を通して、子どもの姿の変容を見取る
- ・アンケート項目
 - ①「子どもは、幼稚園で遊ぶことを楽しいと感じている」
 - ②「子どもは、体を動かして遊ぶことを楽しいと感じている」
 - ③「子どもは、先生や友達とかかわることを楽しんでいる」
 - ④「子どもは、自分の思いを話したり、友達の話を聞いたりしている」
 - ⑤「子どもは、幼稚園兄弟とかかわることを楽しみ、異年齢とのかかわりで成長が感じられる」
 - ⑥「子どもは、自然とのかかわりや飼育、栽培活動を楽しんでいる」
 - ⑧「子どもは、手洗い・うがいや持ち物の始末、着替えを自分でしようとしている」

中間評価

各種指標結果

- ・週案の反省やエピソードの検討を通して、子どもの姿を見取る
- ・研究保育の協議を通して、子どもの姿の変容を見取る
- ・アンケート項目（大変そう思うA、そう思うB、あまり思わないC、思わないD、無回答E）
 - ① 「子どもは、幼稚園で遊ぶことを楽しいと感じている」 A74% B24% C0% D0% E2%
 - ② 「子どもが、体を動かして遊ぶことを楽しんでいる」 A77% B21% C0% D0% E2%
 - ③ 「子どもは、先生や友達とかかわることを楽しんでいる」 A74% B24% C0% D0% E2%
 - ④ 「子どもは、自分の思いを話したり、友達の思いを聞いたりしている」 A24% B66% C8% D0% E2%
 - ⑤ 「子どもは、自分の幼稚園兄弟を知り、親しみを感じ始めている」 A35% B50% C13% D0% E2%
 - ⑥ 「子どもは、自然とのかかわりや飼育、栽培活動を楽しんでいる」 A64% B29% C5% D0% E2%
 - ⑧ 「子どもは、手洗い・うがいや持ち物の始末、着替え等を自分でしようとしている」 A42% B56% C0% D0% E2%

自己評価

分析（成果と課題）

新型コロナウイルス感染症対策の取組を充実させた上で、「人とのかかわり」に取り組むにはどうすれば良いかを検討しながら保育を進めてきた。保育内容や行事の再検討を重ねる中で、「心のつながり」に重点をおくことを大切に進めている。

保育の開始時期が2カ月遅れたことを踏まえ、まずは、安心・安定して子どもたちが過ごせるよう教職員がかかわることで、子どもたちが少しずつ自分の思いを出して生活するようになってきている。子どもたちの安全第一ではあるが、可能な限り多様な経験を保障できるよう取り組んでいくことが課題である。

手洗い・うがい等の生活習慣においては、コロナ感染防止の観点からも、教職員とともに、子どもたち自身もきちんとしようとする意識が育っている。

分析を踏まえた取組の改善

「幼稚園兄弟」等、異年齢とのかかわりにおいては、今年度は密を避けての生活となり、特に難しい面があった。自分の兄弟の写真を各クラスに掲示するなど、親しみを感じられるよう取り組んできたが、今後は、さらに、個々の関係が深まるような取組を実施していく。

	<p>また、生活習慣の確立については、今後も引き続き大切に取り組んでいきたい。</p> <p>(最終評価に向けた) 取組の改善を検証する各種指標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・週案の反省やエピソードの検討を通して、子どもの姿を見取る ・研究保育の協議を通して、子どもの姿の変容を見取る ・アンケート項目 <ul style="list-style-type: none"> ① 「子どもは、幼稚園で遊ぶことを楽しいと感じている」 ② 「子どもは、体を動かして遊ぶことを楽しんでいる」 ③ 「子どもは、先生や友達とかかわることを楽しんでいる」 ④ 「子どもは、自分の思いを話したり、友達の話を聞いたりしている」 ⑤ 「子どもは、幼稚園兄弟とかかわることを楽しみ、異年齢とのかかわりで成長が感じられる」 ⑥ 「子どもは、自然とのかかわりや飼育、栽培活動を楽しんでいる」 ⑧ 「子どもは、手洗い・うがいや持ち物の始末、着替え等を自分でしようとしている」
学校 関 係 者 評 価	<p>学校関係者による意見・支援策</p> <p>今年度は、その都度その都度、どのような思いをもって保育を工夫しているのかを伝えていくことが大切である。家庭でどのように受け止め、どう対応していくかが、幼稚園にとっても影響してくるかもしれない。年度当初、休園していたこともあり、幼稚園に行けなかった時期に、「幼稚園が始まつたら…」と、例年以上の期待が膨らんでいたとも考えられる。実際、評価をするだけの十分な実施時期があったとは言えないかもしれない。</p> <p>手洗い・うがい等の基本的生活習慣については、世の中が感染症対策に敏感になっていること也有って、しっかりと身についている子どもが多い。家庭での意識の高まりも影響している。</p>

最終評価

	<p>(中間評価時に設定した) 各種指標結果</p> <ul style="list-style-type: none"> ・週案の反省やエピソードの検討を通して、子どもの姿を見取る ・研究保育の協議を通して、子どもの姿の変容を見取る ・アンケート項目 (大変そう思う A, そう思う B, あまり思わない C, 思わない D, 無回答 E) <ul style="list-style-type: none"> ① 「子どもは、幼稚園で遊ぶことを楽しいと感じている」 A91% B6% C0% D0% E3% ② 「子どもは、体を動かして遊ぶことを楽しみ、試したり挑戦したりする姿が見られる」 A83% B14% C0% D0% E3% ③ 「子どもは、先生や友達とかかわることを楽しんでいる」 A83% B14% C0% D0% E3% ④ 「子どもは、自分の思いを話したり、友達の話を聞いたりしている」 A24% B73% C0% D0% E3% ⑤ 「子どもは、幼稚園兄弟とかかわることを楽しみ、異年齢とのかかわりで成長したと感じる」 A45% B49% C3% D0% E3% ⑥ 「子どもは、自然とのかかわりや栽培活動を楽しんでいる」 A59% B38% C0% D0% E3% ⑧ 「子どもは、手洗い・うがいや持ち物の始末、着替え等を自分でしようとしている」 A52% B42% C3% D0% E3%
自己 評 価	<p>分析 (成果と課題), 重点目標の達成状況, 次年度の課題</p> <p>前期に比べ、C評価が減り、A評価の割合が高くなっている。例年通りの保育が行い難い状況の中でも、子どもの姿から、園生活を楽しんでいる様子や育ちを感じていることが伺われる。</p> <p>「自分の思いを話したり、友達の話を聞いたりしている」という項目では、A評価が減りB評価が増えている。進級・進学を直前に控え、更なる育ちを望む保護者の思いが見られる。しかし、実際に保育をしている中では、学級での活動を通して、自分の思いを伝えたり相手の思いを聞いたりする姿は育っていると捉えている。</p> <p>分析を踏まえた取組の改善</p> <p>保護者懇談や参観等の取組が難しかった今年度、保護者に保育が見えにくい状況であったと考えられる。それ故、なお一層の園からの保護者への発信に取り組む必要がある。</p>

学校 関 係 者 評 価	学校関係者による意見・支援策
	幼稚園兄弟のように、学年を越えたかかわりを大切にする取組においては、4月5月に幼稚園が休業になってしまったことやたくさんの人数が集まれない状況等の影響が、少なからず出てしまっているのではないかと感じる。しかし、実際に子どもたちの姿を見ていると、仲よく楽しんで遊んでいる様子があり、ほほえましい。1学期の姿を思い起こすと、人に対して温かい思いを感じていることや、自分たちで役割分担等をして遊ぶ姿に成長を感じる。

(2) 幼小連携・接続に関して

	具体的な取組
	<ul style="list-style-type: none"> ・“夢中になって遊び込む”経験を積み重ね、意欲的・主体的に物事にかかわろうとする態度を育む教師の援助や環境構成を考える。また、学びに向かう10の力を意識した保育を推進する。 ・子どもが小学校を身近に感じ、就学の期待感を膨らませることができる交流保育を行い、円滑な接続に向けた連携を図る。 ・「学びに向かう力」を明記したアプローチカリキュラムとしての週案の作成 ・「親子で絵本！」のノートを活用しながら、絵本や物語に親しみ、想像する楽しさを味わうなど、言葉に対する感覚を養う。

	(取組結果を検証する) 各種指標
	<ul style="list-style-type: none"> ・幼児期の終わりまでに育てたい10の姿を意識したエピソードの検討 ・連携や交流保育の回数及び、合同研修の実施回数 ・就学前の情報交換。就学支援シートの活用・個別の指導計画の引継の実施状況 ・「親子で絵本」の活用状況と便りでの子どものつぶやきや保護者のコメント等の紹介 ・アンケート項目 <p>⑦ 「子どもは、絵本を見たり、お話を聞いたりすることを楽しんでいる」</p> <p>⑪ 「幼稚園は、保育所、小学校、中学校との連携を大切にしている」</p>

中間評価

	各種指標結果
	<ul style="list-style-type: none"> ・幼児期の終わりまでに育てたい10の姿を意識したエピソードを検討 ・連携や交流保育の回数1回、合同研修の実施回数1回 ・就学前の情報交換。就学支援シートの活用・個別の指導計画の引継の実施状況は後期実施予定 ・「親子で絵本」の活用、便りでの子どものつぶやきや保護者のコメント等の紹介 ・アンケート項目（大変そう思うA、そう思うB、あまり思わないC、思わないD、無回答E） <p>⑦ 「子どもは、絵本を見たり、お話を聞いたりすることを楽しみにしている」</p> <p style="text-align: right;">A64% B29% C5% D0% E2%</p> <p>⑪ 「幼稚園は、保育所、小学校、中学校との連携を大切にしている」</p> <p style="text-align: right;">A69% B26% C0% D0% E5%</p>

自己 評 価	分析（成果と課題）
	<p>年間計画に基づく保育の実施が難しく、その時の状況に合わせて修正を加えながらの保育となっている。その時点で最善の取り組み方を選んでいるつもりであるが、反省も多い。その中でも、校種間連携は特に難しく、互いの教員同士がいろいろなケースを話し合いながら、連携を進めている。その中で、今年度、交流保育や合同研修を実施できた意味は大きい。</p> <p>「親子で絵本！」は活用できている。また、なかよし会（学校運営協議会）の方の協力を得て、絵本の読み聞かせを実施し、子どもが絵本に親しみをもてるよう取り組んだ。</p>

学校 関 係 者 評 価	分析を踏まえた取組の改善
	<p>引き続き、新型コロナ感染症対策を十分に行った上で、校種間連携を進めていく。実際に子どもたち同士が会うことのない交流についても実施についての話し合いを進めるとともに、保護者等にも、その意義や経験することを通しての子どもの育ちについて知らせていく。</p>
	(最終評価に向けた) 取組の改善を検証する各種指標 <ul style="list-style-type: none"> ・幼児期の終わりまでに育てたい10の姿を意識したエピソードの検討 ・連携や交流保育の在り方の検討 実施回数及び、合同研修の実施回数 ・就学前の情報交換。就学支援シートの活用・個別の指導計画の引継の実施状況 ・「親子で絵本」の活用状況と便りでの子どものつぶやきや保護者のコメント等の紹介 ・アンケート項目 <ul style="list-style-type: none"> ⑦ 「子どもは、絵本を見たり、お話を聞いたりすることを楽しんでいる」 ⑪ 「幼稚園は、保育所、小学校、中学校との連携を大切にしている」

自己 評 価	学校関係者による意見・支援策
	<p>今年度、2年生ではなく1年生との交流ができたことから、昨年度の幼稚園兄弟の取組の成果として「○○ちゃんがいる」「△△ちゃんは私の兄ちゃんやった」等、自分たちがよく知っている友達がいることで、安心してかかわったり、他の小学生にも親しみを感じたりすることができたのではないかと思う。</p> <p>幼稚園を卒業して小学校に入ると、親はつい「もう小学生なんだから」という意識で見てしまう。子どもの中では、その日から急に大きくなるわけではなく、成長は続いているものである。そのあたりのことを、これから年長児の保護者にも丁寧に伝えていくことで、子どもはスムーズに進学していくのではないか。</p>
	最終評価

自己 評 価	(中間評価時に設定した) 各種指標結果
	<ul style="list-style-type: none"> ・幼児期の終わりまでに育てたい10の姿を意識したエピソードを検討 ・連携や交流保育…動画や写真を通しての交流や施設利用等の実施 ・就学前の情報交換実施。就学支援シートの活用・個別の指導計画の引継 ・「親子で絵本」の活用状況と便りでの子どものつぶやきや保護者のコメント等の紹介は実施せず ・アンケート項目（大変そう思うA、そう思うB、あまり思わないC、思わないD、無回答E） <ul style="list-style-type: none"> ⑦ 「子どもは、絵本を見たり、お話を聞いたりすることを楽しんでいる」 A76% B18% C3% D0% E3% ⑪ 「幼稚園は、保育所、小学校、中学校との連携を大切にし、子どもたちの人とかかわろうとする姿の育ちにつなげている」 A62% B35% C0% D0% E3%
	分析 (成果と課題), 重点目標の達成状況, 次年度の課題

	とを大切にしていきたい。
学校関係者評価	<p>学校関係者による意見・支援策</p> <p>動画等、画面を通しての交流であっても、今の子どもたちにはあまり抵抗がないのかもしれません。直接体験に勝ることはないとは思うが、状況に合わせた取組の工夫は効果的である。</p> <p>今年度、1年生に進学した子どもたちは、大切な時期に幼稚園・学校が休業になり、いろいろな不安を抱えたまま、また、進学した実感を中々もてない状況で小学校での生活が始まったのだと思う。そのため、今の年長児の不安に対しても、自分のこととして感じられるという面もあるのではなかろうか。</p>

(3) 預かり保育について

	<p>具体的な取組</p> <ul style="list-style-type: none"> ・長時間預かり保育利用の子どもの心身の負担に配慮した、短時間預かり保育時の遊びの環境づくりや援助を考える。 ・担任や教職員が緊密な連携を図る。(責任体制と指導体制を整える) ・預かり保育の主旨を伝え、保護者への理解を求め、連携を深める。 <p>(取組結果を検証する) 各種指標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・預かり保育の参加人数 ・預かり保育のエピソードの検討 ・アンケート項目 <p>⑨「子どもは、ふかふかランド（預かり保育）の時間を楽しみにしている」</p>
--	---

中間評価

	<p>各種指標結果</p> <ul style="list-style-type: none"> ・預かり保育の参加人数 (4月 23名 5月 29名 6月 76名 7月 118名 8月 50名 9月 172名) 利用率 90% ・預かり保育のエピソードの検討 ・アンケート項目 (大変そう思うA, そう思うB, あまり思わないC, 思わないD, 無回答E) ⑧「子どもは、ふかふかランド（預かり保育）の時間を楽しみにしている」利用者のみ回答 A52% B43% C3% D0% E2%
自己評価	<p>分析（成果と課題）</p> <p>今年度は新型コロナ感染症対策のため、年度当初、主に新2号認定者に向けた預かり保育のみの実施が続いた。例年の長時間預かり保育利用の子どもの心身の負担に配慮した保育に加え、今年度は、感染症への不安にも十分に配慮して預かり保育を実施した。全園児に向けての預かり保育を実施して以降は、少人数でゆったりと過ごす預かり保育に慣れた子どもと、新しく預かり保育を利用する多くの子どもたちとの過ごし方や保育内容、環境構成等について、検討を重ねている。</p> <p>分析を踏まえた取組の改善</p> <p>三密を避けた上での、活動内容やイベントの実施について検討し、取り入れていく。</p> <p>(最終評価に向けた) 取組の改善を検証する各種指標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・預かり保育の参加人数 ・預かり保育のエピソードの検討

	<ul style="list-style-type: none"> ・アンケート項目 <p>⑨「子どもは、ふかふかランド（預かり保育）の時間を楽しみにしている」</p>
学校関係者評価	<p>学校関係者による意見・支援策</p> <p>幼稚園行事の消防署への見学に付き添いで一緒に行くことで、子どもたちが今何に興味をもっているのかを知った上で、預かり保育で取り上げる絵本を選んだ。子どもたちが喜ぶ顔を思い浮かべながら絵本を選んだり、実際に子どもたちに読み聞かせをしたりすることがとても楽しみである。</p>

最終評価

	<p>(中間評価時に設定した) 各種指標結果</p> <ul style="list-style-type: none"> ・預かり保育の参加人数 (10月 244名 11月 213名 12月 245名 1月 213名 2月 226名) 利用率 97% ・預かり保育のエピソードは実施せず ・アンケート項目 (大変そう思うA, そう思うB, あまり思わないC, 思わないD, 無回答E) <p>⑨「子どもは、ふかふかランド（預かり保育）の時間を楽しみにしている」利用者のみ回答</p> <table style="margin-left: auto; margin-right: auto;"> <tr> <td>A62%</td> <td>B29%</td> <td>C6%</td> <td>D0%</td> <td>E3%</td> </tr> </table>	A62%	B29%	C6%	D0%	E3%
A62%	B29%	C6%	D0%	E3%		
自己評価	<p>分析 (成果と課題), 重点目標の達成状況, 次年度の課題</p> <p>長期休業中を含め、安全に安心して遊べる場としての幼稚園の預かり保育の意義は大きく、積極的に預かり保育を活用する家庭が増えている。一方で、人数が多くなり密を避けるために、預かり保育の場を広げ（保育室を分けて利用）たり、指導教員を増やしたりする必要があった。また、例年実施していた預かり保育でのイベントも、内容によっては実施が難しいものもあった。</p> <p>分析を踏まえた取組の改善</p> <p>学年を跨いでの活動となるため、今後も、コロナ禍においては、実施の在り方の検討が必要である。特に、子どもたちが安全に遊べるための指導教員の確保は、年度当初からしっかりととした計画を立てて取り組んでいくことが大切である。</p>					
学校関係者評価	<p>学校関係者による意見・支援策</p> <p>絵本の読み聞かせや昔あそび等、なかよし会（学校運営協議会）が担当する日の子どもたちの参加がとても多いということを聞くと、やりがいを感じる。子どもたちがとても楽しそうに遊んだり絵本を見たりするので、その姿を見るのも楽しみである。今後も続けていきたい。</p>					

(4) 子育ての支援に関して

	<p>具体的な取組</p> <ul style="list-style-type: none"> ・未就園児たまご組（0～3歳児親子）、ぶちひよこ組（2歳児親子）、ひよこ組（3歳児親子）において、発達に応じた遊びや場を提供し、子育ての楽しさを共有できる場を設定する。 ・園庭開放の時間を設け、心と体を解放して遊ぶ場を提供する。 ・ほっこり子育て広場の取組（ふかふかタイム）として、誕生会の後、保護者と園長との懇談の場を設ける。 ・在園児保護者と未就園児保護者が子育てについて語り合える場（説明会）を提供する。
	<p>(取組結果を検証する) 各種指標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教育相談の登録数や参加数

- ・ふかふかタイム実施時の保護者の思いや意見
- ・未就園児（ひよこ組、ぶちひよこ組）対象のアンケート

中間評価

自己評価	各種指標結果
	<ul style="list-style-type: none"> ・教育相談の登録数（3歳児ひよこ組10名、2歳児ぶちひよこ組11名、0～3歳児たまご組36名（2歳児ぶちひよこ組11名含む）） ・ふかふかタイム実施時の保護者の思いや意見 ・未就園児（ひよこ組、ぶちひよこ組）対象のアンケート 後期実施予定
	分析（成果と課題） <p>新型コロナ感染症対策を十分に行いながらの実施を通知してきたこともあり、9月以降、教育相談の登録数（0～2歳児のたまご組・ぶちひよこ組）が増加した。特に、ぶちひよこ組では、年度当初4名だった登録者が11名まで増加した。今後は、登録者が継続的に参加できるよう取組を考えていきたい。</p> <p>3歳児ひよこ組は、在園児と幼稚園兄弟を組んだり、園行事にともに参加できる機会を設けたりすることで、安定して通っている（出席率も高い）。</p>
	分析を踏まえた取組の改善 <p>3歳児ひよこ組については、引き続き今の取組を進めていく。</p> <p>0～2歳児のたまご組・ぶちひよこ組に関しては、安心して通ってもらえるよう感染症対策について徹底していくとともに、保護者にも園の取組について知らせていく。また、在園児の様子がわかるような取組の実施や教職員からの日常的な声かけを行う。</p> <p>チラシやポスター、ホームページ等を通して、公立幼稚園についてや教育相談の取組を積極的に知らせる。</p>
	(最終評価に向けた) 取組の改善を検証する各種指標 <ul style="list-style-type: none"> ・教育相談の登録数や参加数 ・ふかふかタイム実施時の保護者の思いや意見 ・未就園児（ひよこ組、ぶちひよこ組）対象のアンケート
学校関係者評価	学校関係者による意見・支援策 <p>今年度の保護者アンケートの結果を見ていると、普段当たり前にしている保育の大きさ（日常の保育の意義や必要性）を感じる。公立幼稚園の保育の良さや、今も状況や子どもに合わせて保育を工夫しているのだということを、保護者はじめ、広くアピールしていくと思う。</p>

最終評価

自己評	(中間評価時に設定した) 各種指標結果
	<ul style="list-style-type: none"> ・教育相談の登録数や参加数（3歳児ひよこ組14名、2歳児ぶちひよこ組13名、0～3歳児たまご組53名（2歳児ぶちひよこ組13名含む）） ・ふかふかタイム実施時の保護者の思いや意見 ・未就園児（ひよこ組、ぶちひよこ組）対象で聞き取り
	分析（成果と課題）、重点目標の達成状況、次年度の課題 <p>9月以降、登録者数の増加が続き、地域における子育て支援の拠点として、安心して遊べる場の提供や気軽に子育ての相談ができる場としての幼稚園の役割の重要性を実感した。午前中、週</p>

価 値	<p>3回実施している教育相談（0～2歳児のたまご組・ぶちひよこ組）だけでなく、午後からの園庭開放においても、未就園児親子の利用が増えている。</p> <p>また、3歳児ひよこ組でも、後期になってからの登録も増え、子ども同士だけでなく保護者同士の関係も深まり、来年度の入園につながっている。</p> <p>分析を踏まえた取組の改善</p> <p>地域の子育て支援の拠点として、今後も、安全に安心して遊べる場の提供と子育て相談のできる場として、未就園児の教育相談を進めていく。今後も、チラシやポスター、ホームページ等を通して、公立幼稚園の教育や教育相談の取組を積極的に知らせていく。</p>
学校 関 係 者 評 価	<p>学校関係者による意見・支援策</p> <p>今の保護者にとって、インターネットは情報を得る大きな手段であるので、ホームページで発信していくことはとても効果的であると思う。文字の情報だけでなく、写真で様子がわかるということの意味は大きい。</p> <p>また、目に入りやすい場所にポスターが掲示してあるので、実際に足を止めてメモをとったり写真を撮ったりしている親子連れの姿も見かける。なかよし会（学校運営協議会）のメンバーが民生委員等、地域の役割を担っていることも多いので、幼稚園の取組を紹介したり、実際に足を運んでみるよう声かけしたりしており、今後も積極的に協力していきたい。</p>

（5）地域とのかかわり（社会に開かれた教育課程）に関して

	<p>具体的な取組</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学校運営協議会を中心とした、深草幼稚園における教育活動に対する理解の推進と協力、参画を促す。 ・地域活動に積極的にかかわり、子どもたちに多様な経験を保障するとともに、地域の方への深草幼稚園に対する親しみと教育活動に対する理解を深める。 <p>(取組結果を検証する) 各種指標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域行事へ参加回数 ・子どもの姿や保護者、地域の声の聞き取り ・アンケート項目 <p>⑩「子どもたちが、地域行事（こいのぼりセレモニー、ふれあいプラザ、交通安全の集い等）に喜んで参加したり、地域の方の保育参加により、心豊かに育とうとしたりしている」</p>
--	---

中間評価

各種指標結果	<ul style="list-style-type: none"> ・新型コロナウイルス感染症対策のため、地域行事の実施なし ・子どもの姿や保護者、地域の声の聞き取り ・アンケート項目（大変そう思うA、そう思うB、あまり思わないC、思わないD、無回答E） <p>⑨「子どもは近隣への遠足や地域の方の保育参加を通して、深草地域に親しみを感じている」</p> <table border="1"> <tr> <td>A</td><td>64%</td><td>B</td><td>24%</td><td>C</td><td>10%</td><td>D</td><td>0%</td><td>E</td><td>2%</td></tr> </table>	A	64%	B	24%	C	10%	D	0%	E	2%
A	64%	B	24%	C	10%	D	0%	E	2%		
自己評価	<p>分析（成果と課題）</p> <p>新型コロナ感染症対策のため、例年通りの活動ができず、地域の代表である方を多く含んでいたなかよし会（学校運営協議会）の方と触れ合う機会が激減し、また、頻繁に行われていた地域行事もすべて中止になったこともあり、アンケート評価は前年よりも下がっている。</p>										

今年度は、園外保育について見直し、幼稚園から徒歩圏内で子どもが楽しめる場や取組について改めて考える機会を得た。通年を通した継続的な取組として地域の竹林に出かけたり、稻荷山や科学センター等、幼稚園の身近な場の魅力に改めて気づいたりする等、深草地域を見直すことができた。

分析を踏まえた取組の改善

地域行事については今後も実施が難しいと思われるが、なかよし会の方や地域の竹林の担当者の方とのつながりを大切にしながら、できる限りの取組を行うとともに、発信を大切にしていく。

(最終評価に向けた) 取組の改善を検証する各種指標

- ・地域行事へ参加回数
- ・子どもの姿や保護者、地域の声の聞き取り
- ・アンケート項目

⑩「子どもは近隣への遠足や地域の方の保育参加を通して、深草地域に親しみを感じている」

学校
関
係
者
評
価

学校関係者による意見・支援策

深草地域への園外保育の比率や避難訓練等の園行事において、今後も協力していくので、声をかけてほしい。地域の中で育っていく子どもたちを、幼児期からずっと見守っていけるのは自分たちにとっても嬉しいことだと感じている。

最終評価

(中間評価時に設定した) 各種指標結果

- ・新型コロナウイルス感染症対策のため、地域行事の実施なし
- ・子どもの姿や保護者、地域の声の聞き取り
- ・アンケート項目（大変そう思うA、そう思うB、あまり思わないC、思わないD、無回答E）

⑩「子どもは近隣への遠足や地域の方の保育参加を通して、深草地域に親しみを感じている」

A62% B29% C6% D0% E3%

自
己
評
価

分析(成果と課題)、重点目標の達成状況、次年度の課題

今年度は、幼稚園から徒歩圏内で子どもが楽しめる場を中心に園外保育を計画した。通年を通して、継続的な取組として出かけた地域の竹林への園外保育では、深草地域の環境整備に取り組んでおられる地域の方との触れ合いや竹林での子どもたちでもできる作業を行うことで、子どもたちの中にも深草地域に愛着を感じるようになってきている。また、稻荷山や消防署への園外保育の見守りやなかよし会（学校運営協議会）の方との触れ合いを通して、親しみを感じる心が育ってきている。

分析を踏まえた取組の改善

なかよし会（学校運営協議会）の方との触れ合いや、深草地域への園外保育は、今後も実施ていきたい。また、その取り組みを通しての子どもの育ちについて、保護者への発信に努める。

学校
関
係
者
評
価

学校関係者による意見・支援策

今年度は、今までに比べ、なかよし会（学校運営協議会）のメンバーが子どもたちと直接かかる活動は少なかったが、子どもたちが皆の名前を覚えていて、「○○さん」と親しげに声をかけてくれる。声をかけてもらうととても嬉しいし、気持ちがつながっているなと思える。園外保育の付き添いなど、できることは何でも協力していくので、なかよし会や深草地域を身近に感じながら育ってほしいと願っている。

(5) 教職員の働き方改革について

重点目標

- ・教職員一人一人が自らの健康を守り気持ち良く働くことが、幼稚園における教育の充実につながるという自覚をもち、自らの働き方についても意識改革を行う。
- ・校務支援員の効果的な活用を進める。

具体的な取組

- ・毎週水曜日ノ一残業デーとする。
- ・土日、祝日及び、緊急の場合を除き、平日の18時以降の電話対応は控える。
- ・園内行事の見直しを図る。

(取組結果を検証する) 各種指標

- ・教職員の勤務時間及び年休取得状況
- ・水曜日の退出時刻

中間評価

各種指標結果

- ・教職員の働き方については、今年度は、新型コロナウイルス感染症対策のため、在宅勤務等を推奨してきた
- ・水曜日の退出時刻については、きちんと実施できているとは言えない

自己評価

分析（成果と課題）

教職員の仕事への意識は高く、今年度の非常事態においても大きな問題なく、順調に園経営を進めることができている。一方で、時期によっては、勤務時間が超過することが避けられないこともありますのが実情である。また、本務者が少ない幼稚園においてはどうしても限られた教職員に負担がかかることが避けられず、持ち帰り仕事を減らすことは難しい。

分析を踏まえた取組の改善

どうしても時間外勤務が生じてしまう時期を除き、退出時刻を守れる状況にある教職員については退出時刻に園を出られるよう、また、それが難しい教職員においても18時30分には退出できるよう促すとともに、教職員の意識改革に努める。

（最終評価に向けた）取組の改善を検証する各種指標

- ・教職員の勤務時間及び年休取得状況
- ・水曜日の退出時刻

学校関係者評価

学校関係者による意見・支援策

今年度は、新型コロナ感染症対策のための取組もあり、例年通りとはいかないことが多いと思う。協力できるところは声をかけてほしい。創立90周年記念お祝いの会等の園行事についても、一緒に考えていくので、相談してほしい。

最終評価

（中間評価時に設定した）各種指標結果

- ・教職員の勤務時間及び年休取得状況について、前期とあまり変わりなし
- ・水曜日の退出時刻は、実施できているとは言えない

自己評価	<p>分析（成果と課題）、重点目標の達成状況、次年度の課題</p> <p>例年通りの行事や活動の実施が難しい中、教職員は柔軟に対応し、新型コロナウイルス感染症対策の仕事が増えた状況においても、主体的に取り組んでいる。しかし、その分、勤務時間の厳守や定時退出は難しい現状である。</p> <p>次年度も対策の取組は継続すると考えられるので、効率的な方法について検討していく。</p>
分析を踏まえた取組の改善	<p>本務者が少ない幼稚園の現状の中で、仕事の分担や校務支援員の効果的な活用について再検討する。</p>
学校関係者評価	<p>学校関係者による意見・支援策</p> <p>今年度、幼稚園から依頼を受け、竹を切って届けたり、楽器の演奏やマジックで子どもたちを楽しませることができたりしたことは、自分たちにとっても楽しいことであった。なかよし会（学校運営協議会）にできることは何でも協力していくので、すべて幼稚園でやらなければ…と思わず、声をかけてほしい。また、「こんなことがしたいと思っているのですが…」と、思いはあっても具体的な取組方が決まっていないような段階でも、相談してもらえればできることはあると思う。</p>